

I 学校運営の基本構想

1 「本丸の教育」を取り巻く状況

今年度より新学習指導要領が完全実施となり、そのねらいに即した教育活動を展開していくことを第一とする。しかし、新型コロナウイルスの影響など世の中は不安定要素が多数存在し、ますます子どもたちの家族や地域社会との関わりは薄れてきている。学校に対する願いも年々複雑化し、自分の考えや思いを的確に言語化できずに人間関係をうまく構築できず孤立したり、SNS等を介してのトラブルに発展したりするケースも後を絶たない。様々な課題が山積しており、「本丸の教育」を取り巻く状況は依然として厳しい。と同時に市民、保護者の学校教育への期待は大きい。

こうした中、学校は生徒の人間としての調和のとれた育成を目指し、生徒の心身の発達の段階や特性及び学校や地域の実態を十分考慮して、適切な教育課程を編成する義務がある。「生きる力」を育むことをねらいとして、「知・徳・体」のバランスのとれた教育を一貫して進め、全校体制での学力向上指導、生徒指導や不適応生徒への支援、特別支援教育を充実させ、子どもたちに傾聴の姿勢で接しながら、保護者とも信頼関係を築き、社会に開かれた「本丸の教育」を推し進めていく必要がある。新しい時代に必要となる資質・能力の育成と、学習評価の充実を図る。

2 「本丸の教育」の課題

(1) 自己肯定感を高め、互いに認め合い向上し合える本丸の生徒【心】

目標を定め「認められている」「やればできる」「自分は価値がある人間だ」という自己肯定感を一層高める。そのため、学級・生徒会活動や特別活動での話し合い活動、相互に励まし合う集団を形成しようとする生徒の自主的な取組及び発表の場を活発化させていく必要がある。

(2) 基礎・基本を身に付け、目的意識をもって生きる本丸の生徒【知力】

生徒一人一人に確かな学力を身に付けさせるために主体的・対話的で深い学びに向けた授業改善を推し進め、個に応じた指導の充実を図る。

また、家庭学習習慣の形成に向けた指導にも、中学校区で小中連携を図り、さらに具体的な手立てを講じる必要がある。

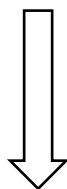
(3) 健康でたくましく生きる本丸の生徒【健康・体力】

健康三原則の「調和のとれた食事」「適切な運動」「十分な休養・睡眠」について生涯教育の観点から指導をする。また、自己の健康改善の意欲を高めるため、「心の健康、喫煙・飲酒・薬物乱用、感染症」「性教育」などの学習の機会を設定する。さらに、自らの体力に関心をもって生活できるよう、運動部活動の意義と役割を踏まえ、マナーの向上、礼儀作法も含め部活動指導の一層の充実を図る必要がある。

II 目標系列

1 教育目標

錬磨し 協調し 創造する生徒



錬磨…知識・技能、身体、精神を鍛える
協調…他の人のよさや違いを認めて、協力し合う
創造…新しいもの（事物、活動、伝統）を創り出す

めざす生徒像

- ・生き方を考え、より高い価値を求め続ける生徒
- ・自他を敬愛し、互いに高め合う生徒
- ・諸活動に真剣に取り組み、力を伸ばす生徒

2 重点目標

- ・生徒の自主的な取組を活発化させて自己肯定感を高め、共感的な人間関係を育てる。
- ・目的意識をもって学ぶ意欲を高めるために、個に応じた指導を充実させる。
- ・食に関する指導と体力向上の取組を強化し、健康でたくましく生きる力を育てる。

3 努力事項

生徒の自己肯定感を高めるために、我々教職員が取組を明確化し、全校体制で組織を生かして、目標を設定し、協働的に仕事を行う。

- (1) 教育の基本である「当たり前」のことが「当たり前」にできる学校を目指す。
「環境は人を育てる」観点から基本的生活習慣の確立のため、生徒も教職員も挨拶・返事・礼の励行、授業のルールの確認と対応、履物を揃える等の立ち居振る舞いやさらに言語環境を整え、適切な言葉遣いを学び、語彙を増やし、教室や校舎などの清掃・掲示物、及び皆の前での発表を含む環境整備の推進を図る。
併せて、学級が全ての基礎・基本であることをもう一度再確認し、学級経営・学級指導を全校体制で取り組む。
- (2) 健全な自尊感情の育成のため、人と人との関わりの大切さを感得させ、話し合い活動や異学年交流等様々な特別活動・生徒会活動を実施するとともに、共感的で受容的な学級づくりを、ライフスキル教育などを取り入れ具体的に推し進める。さらに、生徒の発表及び評価の場の設定を図る。
- (3) 豊かな心（命を大切に作る心、思いやる心、差別や偏見に憤る心、自律心、感謝）を育成するため、様々な活動や講演、そして体験の場を用意する。
- (4) 新しい指導計画のもと授業を進め、資質・能力の三つの柱で整理した目標に準拠して、観点別評価を「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の三観点に整理して、適切に評価を行う。
- (5) 授業スタンダードの自校化による主体的・対話的で深い学びの実現に向けた「分

- かる、できる、楽しい授業」づくりを目指し、授業力を高める取組を進める。
- (6) 望ましい生活習慣の確立のため、健康調査等を基に食育及び日々の健康指導に力を入れ、家庭への啓発活動及び家庭との協働を積極的に行う。健康増進・体力向上への生徒の意識を高め、「体力向上の準備体操」「食育」や「部活動」を大切にする。
- (7) 市施策の「しばたの心継承プロジェクト」を学校の取組とし、生徒にふるさとへの愛着と誇りを育む。

Ⅲ 教育活動の推進

1 3つのプロジェクトによる教育活動の推進

校務分掌のプロジェクトの機能を向上させて実効ある教育活動を展開する。

(1) 学力向上プロジェクト

ア 確かな学力を身に付けさせる学習指導を、基礎・基本から見直し、考えさせる課題の検討、言語表現の工夫、繰り返し問題練習、板書やノートのとり方等の再確認、授業目標（ねらい）の明示とまとめ・振り返りの充実等、授業の再構築を検討するとともに、小中連携を総合的に推進する。

- ・主体的・対話的で深い学びに向けた授業改善の推進
- ・基礎学力及び基礎的・基本的な知識・技能の習得の方策の改善実施
- ・思考力・判断力・表現力を伸ばす教材の開発と提示
- ・学習意欲の向上や学習習慣の確立（家庭学習習慣の定着のための全校自学習ノートの実施）のための方策の改善実施

イ 年間指導計画を見直し、授業を再構築する。

- ・各教科、特別の教科 道徳、特別活動及び総合的な学習の時間の全体計画や年間指導計画の実質的改善

(2) 豊かな心育成プロジェクト

ア 全ての基本である学級における学級指導・経営及び学級活動の充実を図り、話し合い活動等を深化させ、互いに高め合う学級集団や自主的な生徒会を実現する。

- ・学級内における望ましい人間関係づくりの推進、ライフスキル教育の推進
- ・コミュニケーション能力向上の取組と、信頼関係確立の取組
- ・組織の在り方や活動の活発化を目指す生徒会活動への援助・指導

イ いじめの早期解決、不登校生徒の減少を目指す。

- ・「いじめ見逃しゼロスクール」実現への実効性ある取組の推進
- ・不適応・不登校生徒へのきめ細かい、家庭と連携した全校体制での支援（保健室、スクールカウンセラー、さわやかルームや市教委との情報共有、担任による相談・助言・家庭訪問等を支援する学年部・生徒指導部の連携）

ウ 生徒と教職員が共に感性を磨き、倫理観・人権感覚を高める。

- ・「特別の教科 道徳」の実践と授業研究の実施

- ・被差別の立場にある人々に学ぶ人権教育、同和教育の研修と授業実践
- ・本物の鑑賞、積極的な制作活動の奨励による芸術教育の充実
- ・CAPプログラムの実施

エ 中庭や教室の掲示物を含む学習環境整備と活用を図る。
 ・環境学習の場としての意味を高める教室と校舎及び中庭の整備と活用

(3) 食と健康・体力向上プロジェクト

ア 各種調査結果等を基に健康・体力等の実態を把握して、食育、健康・体力づくりの全体計画及び指導計画の見直しを図る。

- ・教科、領域及び総合的な学習の時間における指導場面の明確化
- ・給食指導、食生活調査、健康診断・調査、体力テスト等の実施

イ 生活リズムを定期的にチェックする。

- ・学校・家庭生活における心身の健康に関する悩みやつまづきの早期発見と相談・指導・助言及び家庭との連絡・協力・連携
- ・保護者、スクールカウンセラー、医療機関、相談機関等との連携
- ・性教育の講演会の実施

2 学校評価による学校運営の改善

学校評価を計画的に実施し、次の指導に繋げながら教育活動の質的向上に資する。

(1) 学校評価計画を年度当初に示す。

ア 学校評価委員会を組織し、年間を見通した評価計画を作成する。

イ P D C A サイクルによる学校評価を徹底し、指導に生かす。

(2) 年度の重点目標及び努力事項に対応した、重点課題及び成果目標を設定する。

ア 実現可能な成果目標の設定により、達成感を高め、次の目標設定に繋げる。

イ グランドデザインの中に、成果目標の評価計画を盛り込む。

(3) 一人一人のカリキュラム・マネジメント能力を高める。

ア 教職員個々のカリキュラム・マネジメント能力や参画意識を高める学校評価となるよう、全職員がプロジェクト会議に所属できるようにグループ編成する。

イ 教職員一人一人が主体的に取り組めるまでに目標を具体化し、授業改善に向けた P D C A サイクルを定着させる。

3 共創の学校づくり（しばたの心継承プロジェクト）の推進

市では「道学共創」を学校教育の指針に掲げている。当校が創設以来目指してきた「共創の学校づくり」を推進する上で力強い道標である。今年度もその精神を継続・発展させ、市の施策「しばたの心継承プロジェクト」にも取り組んでいく。

(1) より開かれた学校をつくる。（学校と地域の双方向の関係）

ア 学校の情報を適時適切に発信する。

- ・タイムリーで、読みやすい各種たよりの発行（校内・校外共に）
- ・中学校区支援地域本部事業、外部指導者等地域の人材の発掘・活用

- イ 授業参観日、「明るい子どもを育てる会」等の活性化を図る。
 - ・授業参観日の回数や形態、地域の方々からの情報活用の検討
 - ・小・中の情報交換の緊密化と小中一貫して取り組むことの確認
- (2) 地域の人材及び関係機関との連携をより緊密なものとする。
 - ア 学校評議員会・明るい子どもを育てる会・本丸中学校区支援地域本部事業を有効に機能させ、より強力な支援組織を構築する。
 - イ 生徒指導的な問題への早期対応のため、関係機関との連携を強化する。
- (3) 生徒が地域に貢献する活動を取り入れる。
 - ア 地域行事・活動への生徒の参加
 - ・小中連携による挨拶運動・新発田城清掃活動

※ 教職員の基本的な構え

学校は「人間形成の場である」。教育活動を通し多くの人と関わり、仲間と切磋琢磨し、困難を乗り越え、自分を磨き、成長させるところである。将来、世のため、人のために尽くせる人間の育成を目指す。

本丸中学校の生徒で良かった。保護者も本丸中に子どもを通わせて良かった。我々教職員も本丸中の職員で良かった。生きる希望と勇気と誇りがもてる、我が校を誇れる学校づくりを目指す。生徒に誇りと自信を持たせることを重点的に行う。

教職員と生徒、保護者、地域住民との信頼関係づくりを学校教育の基本において「当たり前のことが当たり前ができる」学校を目指す。生徒もそうであるが、我々教職員も、保護者も同様である。そのために、感謝・敬意・自尊の心を育てる

- (1) 「めざす生徒像」を具現するため、教職員一丸となって教育活動を展開する。

「本丸の教育」課題を解決していくためには、教職員が、当校の課題をしっかりと捉え、率先垂範、自己研鑽に励み、揺るぎない信念で自信と愛情をもって指導に当たることが重要となる。また、生徒の指導に当たっては、教育を受ける側の思いを鋭敏な人権感覚で受け止め、考え、情熱をもって適時的確に支援・指導を行う。

- (2) カリキュラム・マネジメント能力を高め、目標達成を目指す教育活動を行う。

ミドルリーダーが中心となり課題解決を図り、教職員の団結を強める。また、組織を大切に、プロジェクトや教科・学年部の議論を重視し、教育活動を充実させる。その際、学校評価を通してのカリキュラム・マネジメント能力を高め、学校評価結果を基に、絶えず教育活動や学校運営の改善に自ら参画し推進していく。

- (3) 内（校内）に開かれ、外（家庭や地域社会）に開かれた学校を実現する。

「共創の学校づくり」の具現化を目指した中で、保護者・地域住民から多大な協力・支援をもらい、信頼を得てきた。今後もこの取組を進め、家庭・地域とより太いパイプを築いて、学校支援ボランティアの考え方を積極的に取り入れ、保護者・地域住民の学校づくりへの参画意識を高めていく。

また、教職員一人一人の思いや考えを教育活動や運営活動に積極的に生かし、「相違」「創意」「総意」を大切に「本丸の教育」を展開していく。